

## 開港 60 周年、記念式典を開催

### ■ 姫路港、“飛鳥Ⅱ”が寄港

姫路港が今年、開港60周年を迎えるため多くの記念イベントが企画されており、オープニングセレモニーが3月29日、姫路港旅客船ターミナル（姫路市飾磨区）で開催された。当日はクルーズ客船“飛鳥Ⅱ”も寄港して、記念事業開幕に花を添えた。

セレモニーで、兵庫県中播磨県民センターの田中基康センター長が「姫路港は1000年の歴史を持つが、開港60周年を迎える。姫路市制130周年の年でもある。播磨の顔である姫路港が発展するようがんばりたい」とあいさつ。姫路市

の石見利勝市長は「港のにぎわいも少しずつ戻っている。姫路港が発展するようがんばりたい」と強調した。

国土交通省近畿地方整備局の杉中洋一港湾空港部長は「姫路港はエネルギー基地として近畿一円の電力需要をまかなっている。瀬戸内海の玄関口でもあり、地域の活性化につなげてほしい」と祝辞を述べた。

同日は、“飛鳥Ⅱ”が寄港した姫路港で花火400発を打ち上げて、今年行われる記念事業スタートを祝った。姫路市消防音楽隊の演奏



関係者によるくす玉開披

やナイトマーケットなどが行われ市民が楽しんだ。姫路港には今年、“飛鳥Ⅱ”を皮切りに、4月5日に大型客船“ダイヤモンド・プリンセス”が初寄港するなど、客船が多く寄港予定。8月20日には“にっぽん丸”による姫路港発着クルーズも実施される。